

奈良県感染症情報

令和5年 第25週(6月19日～6月25日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ・ダニ媒介感染症に気をつけよう

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県			中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減		
1	新型コロナウイルス感染症	5.58	(5.40)	↑	↑	↑
2	ヘルパンギーナ	5.38	(5.59)	↑	↑	↑
3	感染性胃腸炎	5.29	(5.56)	→	→	→
4	RSウイルス感染症	4.21	(4.79)	→	→	↑
5	A群溶連菌咽頭炎	2.29	(1.59)	↑	↑	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況

新型コロナウイルス感染症の報告数は、増加が続いています。これから夏を迎えるにあたり、エアコンの利用なども常になつてくると思いますが、熱中症予防に配慮しながら、基本的な感染対策である、こまめな換気、人が集まりやすい場所ではマスクを着用する、手洗いをするなどして、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐよう心がけましょう。

ヘルパンギーナの報告数は、多い状況が続いています。中和保健所(西)管内では、3週連続で警報開始基準値(6.0)を上回っています。特別な予防法はなく、おむつの交換など便を扱ったあとは手洗いをきちんとすること、咳やくしゃみが出る場合には、マスクをつけるよう心がけましょう。

◆ダニ媒介感染症に気をつけましょう

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症のことで、時には死に至る場合もあります。特に春から秋にかけてはダニの活動が盛んとなり、刺される危険性が高まるため注意が必要です。

マダニは、シカやイノシシなどの野生動物が生息する環境のほか、民家の裏山や藪庭、畑などにも生息していることから、特に屋外でのキャンプやハイキング、農作業や草刈り、山中での作業(山菜採りや狩猟等)は、ダニに咬まれるリスクが高まります。

予防対策として、草むらや藪など、ダニが多く生息する場所に入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが大事です。DEET(ディート)やイカリジンという成分を含む虫除け剤の中には、皮膚に直接塗布するものや服の上から用いるものがあり、補助的な効果があると言われています。また、屋外活動後はダニに刺咬されていないか確認して下さい。

ダニに刺咬された場合は、無理に引き抜こうとするとダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関(皮膚科)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。また、刺された後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

出典:厚生労働省HP(ダニ媒介感染症)



ダニ媒介感染症(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

奈良県感染症情報

令和5年 第26週(6月26日～7月2日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	新型コロナウイルス感染症	7.89	(5.58)	↑	↑	↑	↑
2	ヘルパンギーナ	6.47	(5.38)	↑	↑	↑	↑
3	RSウイルス感染症	3.00	(4.21)	→	→	→	→
4	感染性胃腸炎	2.68	(5.29)	↓	↓	↓	↓
5	A群溶連菌咽頭炎	2.44	(2.29)	↑	↑	↑	↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は7.89です。定点把握になつて以降やや増加でありましたが、今週は増加になりました。今後急増に転じないためには基本的な感染対策の徹底をお願いします。奈良市やヘルパンギーナの定点当たり報告数が9年ぶりに警報開始基準値である16.0を上回りました。奈良市以外の全地域で増加しているの注意が必要です。特に中和保健所管内西部地域では4週連続で大きく16.0を上回っています。また、吉野保健所管内は8.67で前週の3.33から急増しています。ヘルパンギーナは、発熱や口の中に水疱性の発疹ができる疾患で、発熱時に熱性けいれんを伴うことや、口の中の痛みにより水が飲みにくくなって脱水症状を起こすこともあるため、子供の様子に注意しましょう。

RSウイルス感染症の報告数は減少傾向ですが、まだ注意が必要です。引き続き、感染予防を心がけましょう。

◆小児科外来情報

北部地区(田中小児科医院)

ヘルパンギーナとRSウイルス感染症は続いている。溶連菌感染症、アデノウイルス感染症が見られる。COVID-19が散見される。感染性胃腸炎は減少した。

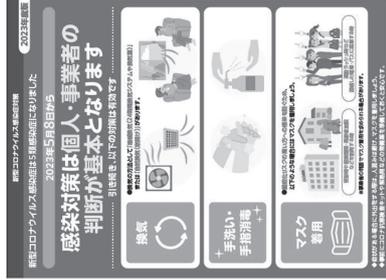
中部地区(岡本内科こどもクリニック)

アデノ、RS、ヘルパンギーナ、A群溶血性連鎖球菌などの高熱の夏風邪が流行中。手足口病はなかった。COVID-19は微増。華麻疹のみを主訴の児で、詳しい問診で37℃の例でCOVID-19陽性例があり感染対策上警戒はまだ必要。感染性腸炎も流行持続。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナが大流行中。高熱1～2日、咽頭痛が強く、プールや水遊びでも流行している。アデノウイルス、手足口病もみられる。下痢の遷延する胃腸炎も増加している。COVID-19は徐々に増加、インフルエンザの流行はおさまっている。

遷延する発熱、咳嗽からはRSウイルス、パラインフルエンザウイルス3型、4型、ヒトライノウイルスが検出されている。



出典:厚生労働省HP <https://www.mhlw.go.jp/content/001093487.pdf>

奈良県感染症情報

令和5年 第27週(7月3日～7月9日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

ヘルパンギーナ
重症化中!

今週の概要
● 病原体(ウイルス)検出情報(6月)
● 6月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		増減	南部
		定点当たり	(前週)		
1	新型コロナウイルス感染症	10.53	(7.89)	↑	↑
2	ヘルパンギーナ	5.79	(6.47)	↓	↓
3	感染性胃腸炎	3.68	(2.68)	↑	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	3.00	(2.44)	↑	↓
5	RSウイルス感染症	2.26	(3.00)	↓	↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は10.53で、前週に引き続き増加しています。特に中和保健所管内西部地域と郡山保健所管内、吉野保健所管内の3地域で10.0を超えています。これ以上の感染拡大を防ぐためにも基本的な感染対策の徹底をお願いします。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は引き続き高い水準で推移しています。年齢別では1歳から4歳までが多く、全体の76%を占めています。地域別では郡山保健所管内が7.78で先週の5.11から増加しています。中和保健所管内西部地域は7.83で5週ぶりに減少しましたが、まだ多い状況なので注意が必要です。ヘルパンギーナは発症後4週間程度は便からウイルスが排泄されるため、おむつ交換や排便のあとはしっかりと手を洗いましょう。

A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)の報告数が増加しています。特に中和保健所管内西部地域では、警戒開始基準値の(8.0)を上回っています。例年は春先から初夏にかけて多く見られる疾患ですが、今年にはピークの時期が異なっているのので注意してください。A群溶連菌咽頭炎はA群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症で、特に学童期の小児が最も多くかかる病気です。感染者との濃厚接触を避け、うがいや手洗いを、感染対策をお願いします。



出典:厚生労働省 HP
<https://www.amahe.go.jp/content/1090000/000659494.pdf>

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(令和5年6月) ◆

* ウイルス分離判定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他
E9 ウイルス			2	
コクサッキーウイルス	2			
サボウイルス	G II. 3		1	
ヒトヘルペスウイルス			1	

奈良県感染症情報

令和5年 第28週(7月10日～7月16日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

ヘルパンギーナ
重症化中!

今週の概要
● 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		増減	北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)				
1	新型コロナウイルス感染症	10.89	(10.53)	↑	↑	↗	↑
2	ヘルパンギーナ	4.15	(5.79)	↓	↓	↓	↓
3	感染性胃腸炎	4.00	(3.68)	↑	↑	↑	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	3.24	(3.00)	↑	↑	↑	↑
5	RSウイルス感染症	3.03	(2.26)	↑	↑	↓	↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は10.89で、増加が続いています。夏休みやお盆の帰省などでハイスクの方と会う場合や大人で集まる場合は、感染予防を心がけて体調の変化に注意しましょう。ヘルパンギーナは前週よりやや減少しましたが、報告数の多い状況が続いており、依然として警戒発令中です。年齢別では特に1歳から4歳までの報告が多いです。

A群溶連菌咽頭炎の報告数も増加が続き、特に中和保健所管内西部地域で多い状況が続いています。RSウイルス感染症の報告が続いています。特に、中和保健所管内東部地域と吉野保健所管内での増加が目立ちます。感染予防のため、手洗いは流水と石けんにてこまめに行い、タオルの共用は避けて下さい。特に小さい子供がいる家庭では日常的に触れるおもちゃなどの消毒を行うことも効果的です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(田中小児科医院)

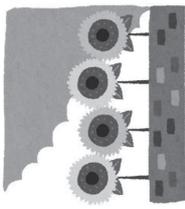
RSウイルス感染症、ヘルパンギーナの流行は続いている。直近の28週では小児のCOVID-19の陽性例はなかった。溶連菌感染症が幼児にも見られる。咳と発熱が遷延する症例があり診断に苦慮する。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

種々の夏風邪例が続いている。アデノ、ヘルパンギーナの流行、A群溶血性連鎖球菌もある。手足口病はなかった。幼児RSV感染が多い。ほとんどもは外来Follow可能であった。hMPV肺炎はなかった。COVID-19 例が増加、熱の無い例もあり接触歴などあれば症状如何に問わず検査必要。感染性腸炎も多い。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は増加。小児では普通感冒様だが、一部症状が遷延している。RSウイルス感染症の流行も続いている。入院例も少ない。ヘルパンギーナの流行も続いている。アデノウイルス感染症もみられているが、手足口病は少ない。胃腸炎は大部分がウイルス性だが、一部細菌性もあり便性に注意する必要がある。水痘も散見されている。



奈良県感染症情報

令和5年第29週(7月17日～7月23日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス
感染増加中!

今週の概要
・新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な対策を心がけましょう
・7月28日は肝炎デーです

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		増減	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	新型コロナウイルス感染症	14.71	(10.89)	↑	↑	↑
2	感染性胃腸炎	2.74	(4.00)	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.15	(3.24)	↓	↓	↓
4	RSウイルス感染症	1.97	(3.03)	↓	↓	↓
5	ヘルパンギーナ	1.76	(4.15)	↓	↓	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は14.71で、増加が続いています。全地域で報告が増加しており、特に中和保健所管内の東部地域が10.36から17.82、西部地域が12.50から20.30とかなり3地域と比べて大きく増加しています。

A群溶連菌咽頭炎の報告は減少しましたが、中和保健所管内西部地域では多い状況が続いています。抗菌薬による治療が可能な嘔頭痛などの症状がある場合は、早めに受診しましょう。感染予防のため、手洗いや咳エチケットの徹底をお願いします。

ヘルパンギーナの報告数は減少し、警報終息基準値を下回りました。

◆新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう。◆

「換気、消毒、距離、必要な場面のマスクの着用」が
3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断に有効です。

マスクの着用が効果的とされる場合
● 医療機関受診時、高齢者など重症化リスクが高い方が多く入院・生活する医療機関や高齢者施設などへの訪問時
● 通勤・通学時、電車やバスへの乗車時 など
※ 事業者が、感染対策上または事業上の理由でマスク着用を求めるときがあります

◆7月28日は、世界・日本肝炎デー◆

肝炎とは、肝臓の細胞に炎症が起こり、肝細胞が壊される病気です。
原因には、ウイルス感染(A/B/C/D/E型など)、アルコール、自己免疫等があり、日本では、B型肝炎ウイルスあるいはC型肝炎ウイルス感染による肝炎がその多くを占めています。
感染者の多くが、肝炎ウイルスに感染しても、感染時期が明確でないことや自覚症状がなく、適切な時期に治療を受ける機会を逃し、気づかぬうちに肝硬変や肝がんへ移行することが問題となっています。

○一度検査を受けましょう

感染しても、早期に適切な治療を行うことで、肝炎の治療、あるいは肝硬変や肝がんへの悪化を予防することが可能です。検査は採血のみなので、これまでに肝炎検査の受検歴がない方は検査を受けましょう。
※無料検査の問い合わせや、ご相談先については下記を参照ください。

「肝炎対策について(奈良県HP)」: https://www.pref.nara.jp/5169.htm

奈良県感染症情報

令和5年第30週(7月24日～7月30日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス
感染増加中!

今週の概要
・新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう
・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		増減	北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)				
1	新型コロナウイルス感染症	16.89	(14.71)	↑	↑	↑	→
2	A群溶連菌咽頭炎	3.12	(2.15)	↑	↑	↑	↑
3	感染性胃腸炎	2.85	(2.74)	→	→	→	→
4	RSウイルス感染症	1.50	(1.97)	↓	↓	↓	↓
5	ヘルパンギーナ	1.41	(1.76)	↓	↓	↓	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は16.89で、依然として増加が続いています。特に中和保健所管内西部地域は27.80で、他の地域と比べて報告数が多いです。

A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)の報告数は第29週に一旦減りましたが、今週増加しました。中和保健所管内西部地域で多い状況が続いています。引き続き注意が必要です。

◆新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう◆

「換気、消毒、距離、必要な場面のマスクの着用」が
3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断に有効です。

◆小児科外来情報◆

北中部地区(田中小児科医院)

家族内感染にはCOVID-19感染症、インフルエンザ、ヒトメタニューモウイルス感染症があった。溶連菌感染症、アデノウイルス感染症、RSウイルス感染症など、様々な感染症が流行している。迅速検査キットの進歩もあると思いますが、このような状況を経験した記憶はない。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

種々の感染症で外来数は多い。
特に頻回の咳の例が多くhMP陽性例、幼児のRS例もある。
COVID-19陽性例が増加、軽症で接触など思い当たらず保護者が結果に驚く例も多い。家族内感染もみられ、やはり感染力はそれだけ強いと思われる。母から感染の生後14日、40日の別家族2新生児例もあった。初診時は発熱のみで重症経過ではなかった。
インフルエンザA型も増加中。A群溶血性連鎖球菌も流行。
感染性腸炎も流行、発熱、水様下痢で嘔吐は少ない例が多い。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19感染症の増加が続いている。大部分が接触歴のない陽性例であり、感染未確認が多いと思われる。小児では軽症で経過している。
ヘルパンギーナの流行も続いている。ヒトメタニューモウイルス感染症やRSウイルス感染症も多い。
下痢の遷延するウイルス性腸炎も流行している。軽症に経過しているが、カンピロバクター陽性者も散見される。

次回週報は令和5年8月10日(木)発行します



奈良県感染症情報

令和5年第31週(7月31日～8月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス
感染速報増加中!

今週の概要
・病原体(ウイルス)検出情報(7月)
・7月報(月単位報告対象疾患(性感染症、薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		増減	南部
		定点当たり	(前週)		
1	新型コロナウイルス感染症	17.31	(16.89)	↗	↗
2	感染性胃腸炎	3.06	(2.85)	↗	↖
3	A群溶連菌咽頭炎	2.94	(3.12)	↘	↘
4	咽頭結膜熱	1.53	(0.82)	↗	↗
5	RSウイルス感染症	1.21	(1.50)	↘	↗

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は17.31で増加が続いており、引き続き注意が必要です。咽頭結膜熱が増加しています。子どもの夏風邪の一つで、感染経路は通常、飛沫感染あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道から感染します。咽頭結膜熱はプール熱とも呼ばれており、水遊びやプールで汚染した水を介して感染が広がる可能性があります。プールからあがったときはシャワーを浴び、うがいをお願いします。タオルの共有も避けましょう。予防には流水と石けんによる手洗いが有効です。

夏休みやお盆の時期を迎えます。

また新型コロナウイルスの患者数が増加傾向にあります。

新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう

「換気、消毒、距離、必要な場面でのマスクの着用」が

3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断に有効です



冷房時はドアや窓を閉めがちになります。

常時でなくとも、時々ドアや窓を開ける意識付けをしましょう。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和5年7月)◆

検出病原体	*ウイルス分離判定日での集計結果			
	北部	中部	南部	その他
RS	1			臨床診断名 RSウイルス感染症(1)
インフルエンザ	AH3	1		インフルエンザ(1)
コクサッキー	A群4型	1		発疹症(1)
コクサッキー	B群5型	1		エンテロウイルス感染症疑い(1)



奈良県感染症情報

令和5年第32週(8月7日～8月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス
感染速報増加中!

今週の概要
・新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう
・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		増減	北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)				
1	新型コロナウイルス感染症	14.00	(17.31)	↘	↗	↘	↗
2	A群溶連菌咽頭炎	1.71	(2.94)	↘	↘	↘	↘
3	感染性胃腸炎	1.53	(3.06)	↘	↘	↘	↘
4	インフルエンザ	0.69	(0.51)	↗	↗	↗	↗
5	RSウイルス感染症	0.65	(1.21)	↘	↘	↘	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は14.00です。報告数が急激に減少している医療機関が複数ある一方で、増加している医療機関もあることから、三連休やお盆などの休診が影響している可能性が考えられます。お盆には人の往來の機会も増えるため、引き続き体調の変化に気をつけて、感染予防を心がけましょう。
A 群溶連菌咽頭炎(A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎)の定点当たりの報告数はやや減少しましたが、こちらも休診の影響が考えられるため注意して下さい。A 群溶連菌咽頭炎の治療には、抗生物質が効果的です。咽頭痛がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

◆新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう◆

「換気、消毒、距離、必要な場面でのマスクの着用」が
3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断に有効です。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19 感染症は多い。アデノウイルス感染症が乳児に見られる。
A 群溶血性胃腸炎が見られる。インフルエンザや溶連菌感染症の陽性例は無い。
熱と咳が連発するウイルス性と思われる気管支炎が散見される。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19 患者は増加しているが一律という程ではない。症状は軽症で無熱、微熱程度の例も多い。
A 群溶血性連鎖球菌、hMP 肺炎、アデノウイルスなどの他の感染症も雑多に見られる。
乳児RSはなつかない。乾性咳嗽のしつこい感染症が年長児に見られる。
嘔吐は少なく水様下痢中心のウイルス性様の感染性腸炎も流行中。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症は増加している。
遅延する呼吸器感染症ではRSウイルス、ヒトメタニューモウイルス陽性者が多い。入院必要例もある。
また百日咳も散見されているが、ワクチンの影響が典型的ではない。
ヘルパンギーナの流行はおさまりました。



奈良県感染症情報

令和5年第33週(8月14日～8月20日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス

今週の概要

- ・新型コロナウイルスの感染増加中!
- ・新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう
- ・蚊媒介感染症に気をつけましょう

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	(前週)	増減
1	新型コロナウイルス感染症	18.60	(15.95)	↑
2	感染性胃腸炎	2.97	(1.71)	↑
3	咽頭結膜熱	1.50	(0.71)	↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.41	(1.76)	↓
5	インフルエンザ	0.84	(0.73)	↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を修正しています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↔やや増加、↘傾ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

第33週の定点あたり報告数は、新型コロナウイルス感染症が18.60で、増加傾向が続いています。地域別では、中和保健所管内西部地域が25.70で一番多く、次いで吉野保健所管内が24.50となっています。感染性胃腸炎は2.97、咽頭結膜熱は1.50となりました。

新型コロナウイルス感染症と咽頭結膜熱については高い値で推移しているため、引き続き注意が必要です。

◆新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう◆

「換気、消毒、距離、必要な場面でのマスクの着用」が
3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断に有効です。

◆蚊媒介感染症に気をつけましょう◆

猛暑のため日中は休んでいた蚊も、終日活動する季節が近づいてきました。蚊媒介感染症にはデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎、ウエストナイル熱、黄熱、マリアナなどがあり、主な流行地は熱帯・亜熱帯地域です。日本においては、日本脳炎以外は輸入感染症とみられていますが、デング熱に関しては2014年に国内感染が報告されました。今年も、これまでに熱帯・亜熱帯地域において、デング熱の大規模な流行が報告されています。奈良県保健研究センターでも今年度、海外渡航者からデング熱ウイルスが検出されました。国際的な人の移動が活発になると、輸入感染症も増える可能性があり、国内感染する場合もあるため、蚊媒介感染症への予防と対策にも気を配りましょう。

蚊を発生させない対策

- ✓ 屋外に放置された、おもちゃ、植木鉢の皿、じょうろ、雨よけのブルーシート、古タイヤ、空き缶などに水が溜まらないように管理しましょう。

蚊に刺されない対策

- ✓ 屋外では長袖・長ズボンを着用するなど、肌の露出を少なくしましょう。
- ✓ 虫除け剤を使用するなど、蚊を寄せない工夫をしましょう。

ワクチン接種による対策

- ✓ 日本脳炎など一部の蚊媒介感染症はワクチン接種で予防することができます。
- ✓ 黄熱のように、感染リスクのある地域へ渡航する方へ、ワクチン接種が推奨されている感染症もあります。海外渡航の際は、事前に検疫所ホームページでご確認ください。

蚊媒介感染症(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsite/bunya/0000164483.html>



奈良県感染症情報

令和5年第34週(8月21日～8月27日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス

今週の概要

- ・新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう
- ・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	(前週)	増減
1	新型コロナウイルス感染症	19.27	(18.60)	↑
2	感染性胃腸炎	3.26	(2.97)	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.35	(1.41)	↓
4	咽頭結膜熱	1.15	(1.50)	↓
5	インフルエンザ	1.13	(0.84)	↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↔やや増加、↘傾ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

第34週の定点当たりの報告数は、新型コロナウイルスが19.27で依然増加が続いています。また、インフルエンザも流行期入りの指標とする「1」を超え、増加しています。咽頭結膜熱は1.15で減少傾向にあります。また高い値で推移しています。基本的な感染予防を心がけ、体調の変化に注意しましょう。

感染予防には、こまめな手洗いや咳エチケット、規則正しい生活(バランスのとれた栄養、睡眠時間を十分に取るなど)を心がけましょう。

◆新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう◆

「換気、消毒、距離、必要な場面でのマスクの着用」が
3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断に有効です。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19は依然として多い。アデノウイルス感染症が保育園で流行している。咳を伴う発熱児ではRSウイルス、MPVの陽性例が見られた。ヘルパンギーナは減少傾向にある。インフルエンザ、溶連菌感染症は無かった。

エックを食した小学生の感染性胃腸炎(原因菌は検査中)があった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19例が増加。家族内感染例が多くやはり感染力はやや強い様子。無症状の例もある。親等から感染の新生児・乳児例もあるが殆ど軽症に経過。hMPV感染も流行。乾性咳嗽が強い。RSは減少した。

アデノ陽性例も続いて見られる。

感染性肺炎も流行。嘔吐・下痢が主で経過は短期。

ヘルパンギーナ、手足口病などは見られなかった。

インフルエンザはなかった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19の流行は続いていいる。普通感冒症状が大部分だが、一部症状遷延例もいる。RSウイルスは減少、ヒメタニューモウイルス感染症は増加している。ヘルパンギーナはほとんどとみられなくなった。インフルエンザAの小流行がみられている。



奈良県感染症情報

令和5年第35週(8月28日～9月3日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス
感染数増加中!

今週の概要
・新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう
・病原体(ウイルス)検出情報(8月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	新型コロナウイルス感染症	19.38	(19.27)	→	→	→
2	感染性胃腸炎	3.56	(3.26)	↗	→	↗↗
3	インフルエンザ	1.58	(1.13)	↗↗	↗	↗↗
4	咽頭結膜熱	1.44	(1.15)	↗	↗	↗↗
5	A群溶連菌咽頭炎	1.32	(1.35)	→	↘	↗

発生状況：大流行 流行 やや流行 少し流行 (疾患毎に、基準値を定めています)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 ↗↗急増、↗増加、↘やや増加、→横ばい、↘やや減少、↘減少

◆県内概況

第35週の新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は19.38と、増加傾向が続いています。インフルエンザの定点当たりの報告数が増加しています。インフルエンザは通常、冬期を中心に流行しますが、すでに県内全域で増加傾向がみられており、近隣府県も同様の傾向がみられます。咳エチケットや規則正しい生活を心がけ、感染予防に努めましょう。

咽頭結膜熱の定点当たりの報告数は1.44と高い水準で推移しています。咽頭結膜熱は、発熱、のどの痛み、結膜炎などの症状を主とする小児に多い感染症です。患者のせきやくしゃみのしぶき、便などに排出されるウイルスにより感染します。症状がなくなつた後も一ヶ月程度、ウイルスが便に排出されることがあり、家族内で感染が拡がることもあるため、注意が必要です。タオルなどの共用は避け、流水と石けんによる手洗いをしっかりと行いましょう。

◆新型コロナウイルスの特徴を踏まえた自主的な感染対策を心がけましょう

「換気、消毒、距離、必要な場面でのマスクの着用」が
3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断に有効です。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和4年8月)

*ウイルス分離判定日での集計結果

検出病原体	奈良県			その他	臨床診断名
	北部	中部	南部		
単純ヘルペス 1型		1			臨床診断名
コクサッキー A群2型		1			ライノウイルス感染症(1)
コクサッキー B群5型	1				多形性滲出性紅斑(1)
					無菌性髄膜炎(1)



奈良県感染症情報

令和5年第36週(9月4日～9月10日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス
感染数増加中!

今週の概要
・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	新型コロナウイルス感染症	18.91	(19.38)	→	→	↘
2	感染性胃腸炎	3.71	(3.56)	↗	→	↗
3	咽頭結膜熱	2.59	(1.44)	↗	↗	↗
4	インフルエンザ	2.40	(1.58)	↗	↗	↗
5	A群溶連菌咽頭炎	2.32	(1.32)	↗	↗	↗

発生状況：大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 ↗↗急増、↗増加、↘やや増加、→横ばい、↘やや減少、↘減少

◆県内概況

第36週の新型コロナウイルス感染症の報告数は18.91でした。「換気、消毒、距離、必要な場面でのマスクの着用」が3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断に努めましょう。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数が2.59と増加しており、特に中和保健所管内西部地域では8.33と、警戒基準値(3)を大きく上回る値となっています。咽頭結膜熱はアデノウイルスによる感染症で、感染経路は主に飛沫感染や接触感染です。予防のため、流水と石けんできれいに手を洗うようにしましょう。インフルエンザの定点当たり報告数が、県内全域で増加しています。インフルエンザは流行が始まると短時間に多くの人へ感染が拡がるため、注意が必要です。予防には、外出後の手洗いや適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取が有効です。

◆小児科外来情報

北部地区(田中小児科医院)

発熱がある児童ではCOVID-19とインフルエンザAが同程度に流行している。初期の症状だけでは鑑別がつかない。
園児以下の発熱ではアデノウイルス感染症も多い。RSとhMPVも見られる。
下痢症状が無く腹痛と発熱の細菌性胃腸炎がみられた。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19が増加、学童に多い。感染力が強いと思われる家族中全員の罹患も多い。新生児から乳児も見られるがほぼ軽症に経過。
インフルエンザAも急増という程ではないが増加している。
感染性胃腸炎もあり、水様下痢・嘔吐もみられる。中にCOVID-19例もあり警戒が必要。
RSは減少してきたがhMPが多い。ヘルパンギーナ、アデノ、手足口病は見られなくなった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19の流行は減っている。大部分の小児の感染者は軽症に経過している。
アデノウイルス、ヘルパンギーナ、手足口病は散見されるも、流行は落ち着いてきている。
RSウイルス感染も減少しているが、ヒトメタニューモウイルス感染は多い。またA型インフルエンザの小流行も続いている。
百日咳も散見されているが、ワクチン接種歴のある小児では症状は非典型的である。

奈良県感染症情報

令和5年 第37週(9月11日～9月17日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス
感染拡大進行中!

今週の概要
● 9月24日～9月30日は結核予防週間です
● 8月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	(前週)	増減
1	新型コロナウイルス感染症	17.51	(18.91)	→
2	インフルエンザ	4.07	(2.40)	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	3.71	(2.32)	↑
4	感染性胃腸炎	3.32	(3.71)	→
5	咽頭結膜熱	2.88	(2.59)	↑

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数流行 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、→横ばい、→やや減少、↓減少

◆県内概況◆

第37週の新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は17.51でした。感染予防には「換気、消毒、距離、必要な場面でのマスクの着用」による3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)の遮断が有効です。また、新型コロナウイルスの令和5年秋開始接種が、自治体によっては始まっています。詳しくは、住所の市町村からのワクチン接種に関する案内をご確認ください。

インフルエンザの定点当たり報告数が県内全域で増加しており、学校等での集団発生も多数報告されています。体調管理と手洗い、湿度保持などの予防対策を行いましょ。
A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数が3.71と増加しており、特に中和保健所管内西部地域では12.67と、警戒基準値8を上回る値となっています。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数が2.88と高い水準で推移しており、特に県内中部地域では警戒基準値の「3」を上回っています。主な感染経路は飛沫感染と接触感染で、患者が触れたタオルや階段の手すりなどを介して感染することもあります。咽頭結膜熱はプール熱とも呼ばれており、水遊びやプールで汚染した水を介して感染が広がることもあります。感染予防には、流水と石けんによるこまめな手洗いが有効です。

◆9月24日～9月30日は結核予防週間です◆

結核は、今でも全国で年間10,000人以上の新しい患者が発生し、1,600人以上が命を落としている日本の主要な感染症です。

奈良県でも、令和4年に120人以上の新しい患者が発生しました。結核の症状(長引く咳、たん、微熱、体のだるさなど)には特徴的なものがない、初期には目立たないことが多いため、特に高齢者では気づかないうちに進行してしまうことがあります。

結核を感染症でも、早期に発見できれば重症化を防げるだけではなく、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。

咳やたんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続いたりする場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

出典: 結核600ワクチン(厚生労働省 HP)
https://www.nhi.go.jp/stf/sei/sakumitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou03/index.html



奈良県感染症情報

令和5年 第38週(9月18日～9月24日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

新型コロナウイルス
感染拡大進行中!

今週の概要
● 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		
		定点当たり	(前週)	増減
1	新型コロナウイルス感染症	11.09	(17.51)	→
2	インフルエンザ	4.31	(4.07)	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	3.12	(3.71)	↑
4	感染性胃腸炎	2.91	(3.32)	→
5	咽頭結膜熱	2.26	(2.88)	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数流行 取除 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、→横ばい、→やや減少、↓減少

◆県内概況◆

第38週の新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は11.09でした。インフルエンザの定点あたり報告数は4.31と増加が続いています。どちらとも感染予防には、換気、消毒、距離、必要な場面でのマスクの着用が有効です。ワクチン接種の検討を含め、引き続き、感染対策をお願いします。

咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は2.26と、高い状況が続いています。咽頭結膜熱は、アデノウイルスを原因とする感染症で、主な感染経路は飛沫感染や接触感染です。流水と石けんによる手洗いなどの基本的な感染対策を徹底し、タオルやおもちゃの共用は避けましょ。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザ A が増加している。COVID-19 はやや減少した。hMPV 感染症が多く見られる。

溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、手足口病は散見される。腹痛の強い感染性胃腸炎では細菌性を疑われる便性を見ている。

中部地区(南内科こどもクリニック)

COVID-19 例が増加、学童に多い。ほとんど軽症。家庭内で保護者等から感染した生後数ヶ月の乳児も軽症に経過している。

hMP 感染症が稀い。RS 感染症は減少した。感染性腸炎も多く、症状は短期の水様下痢の例が多い。他に A 群溶血性連鎖球菌があった。アデノ、ヘルパンギーナはなかった。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

COVID-19 の流行は続いている。小児では大部分軽症に経過している。

A 型インフルエンザは散発的な流行が続いている。ヒトメタニューモウイルス感染症は多いも、RSウイルス感染症は減少した。

アデノウイルス咽頭炎、溶連菌感染による扁桃炎の流行あり。またヘルパンギーナ、手足口病も増えた。

令和5年9月

季節性インフルエンザワクチンに関するお知らせ
接種を希望される高齢者のみさまへ

定期接種対象者(65歳以上の高齢者)は、インフルエンザワクチンの接種を希望される方は、お早めに接種をお願いします。

国のインフルエンザについては、今年2月中旬以降は過去最大の接種率が達成されたことに加え、接種率向上に向けた取り組みが実施されています。

※ 65歳以上の高齢者が、0歳から5歳未満の幼児・児童・生徒、医療従事者、高齢者等の接種対象となる高齢者の接種率向上のため、接種率向上に向けた取り組みが実施されています。

皆様へのお誘い

- ・インフルエンザ予防接種の機会を捉え、手洗い、咳エチケット、マスク、距離確保などの感染予防対策を徹底していただくことで、予防効果が期待できます。
- ・インフルエンザ予防接種は、高齢者だけでなく、幼児・児童・生徒、医療従事者、高齢者等の接種対象となる高齢者の接種率向上のため、接種率向上に向けた取り組みが実施されています。
- ・インフルエンザ予防接種は、高齢者だけでなく、幼児・児童・生徒、医療従事者、高齢者等の接種対象となる高齢者の接種率向上のため、接種率向上に向けた取り組みが実施されています。
- ・インフルエンザ予防接種は、高齢者だけでなく、幼児・児童・生徒、医療従事者、高齢者等の接種対象となる高齢者の接種率向上のため、接種率向上に向けた取り組みが実施されています。

厚生労働省